七編上

柳亭種彦作

歌川國貞画

天保三年壬辰
孟春發市

女編笠初

通油町　製本
鶴屋喜右衛門

修紫田舎源氏首巻七編序

他人の猿似の猿源氏鰯煮鍋

初のう操かくまでよそれかまた仏さ

尾上お名の仕おほ仏さう藤の方と光氏の忍逢一條の猶の橙三の

運わう空表とむう荻の閨房のくびも大經師お三茂兵衛ふ

髪髪帰さう阿古木が魂の古寺も黄昏て繋るもの近年流行の

怪談狂言焼酎火さう明くる

浮んぶ月ともろぶん真暗よまつ仕掛の燭臺圍よ碑の七編續

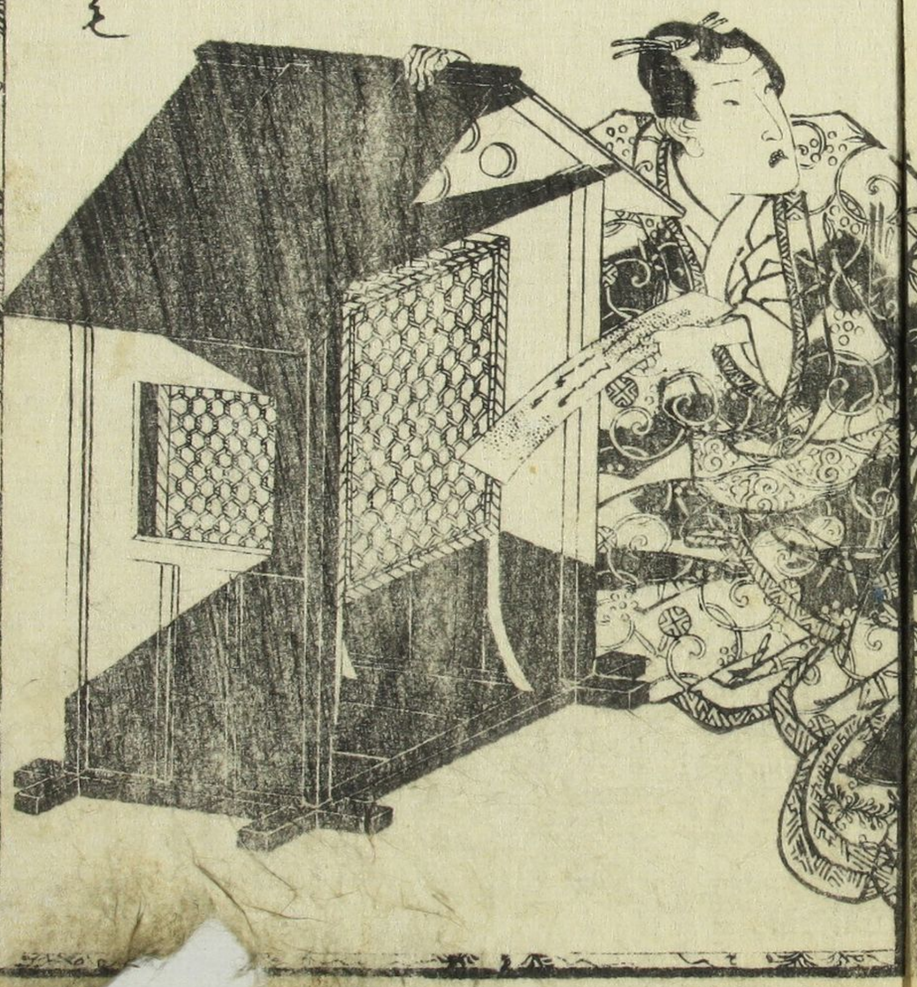
彼猿源氏が商ひ鰯の異名のあるうある若紫の焼直し

嗚呼無慶ふさーもそく棚守とうてや廢らん

天保三年壬辰孟陽

柳亭種彦誌

光氏音川の下館よ
忍びて藤の方ゝ
密事を告る



まてしばしとも夜
よわるふる
夢はうちにも
やどそまぐる
我身
ともどか

ゑごろうよ
人やはこゝん
たゞひめく
うち我身を
さあ忠
ゑゝよ
なゝてゝ

○光氏はまづひろまへ入給ふ
よりはやまさうのまへおりぬ
御ともの人ひまなくつゞきて
ひかりてまゐる
○中ぞらへうつくしきの
ふえのねいとおもしろく
ふきあはせたるほど
○光氏ひろまの
むかうのつまどうけたる
ところへおはしまして
ぬぎ給ふ
○光氏はまづ町よ
りうへまゐり給ふ
ふぢつぼのみやの
御かたへもまゐり給ひて
○まねをひきあげて
つくれり
○光氏のまへにて
つぼをうちたまふ
やうのあんらくぢゆをうたひて
これはわかうこれはわかう
めでたくさかえいまさかりなる
御ありさまなどうたひ
給ふ
○光氏ひろまへ
おりたまふ
○光氏はまづひろまへ入給ふ
よりはやまさうのまへおりぬ
御ともの人ひまなくつゞきて
ひかりてまゐる
○中ぞらへうつくしきの
ふえのねいとおもしろく
ふきあはせたるほど
○光氏ひろまの
むかうのつまどうけたる
ところへおはしまして
ぬぎ給ふ
○光氏はまづ町よ
りうへまゐり給ふ
ふぢつぼのみやの
御かたへもまゐり給ひて
○まねをひきあげて
つくれり
○光氏のまへにて
つぼをうちたまふ
やうのあんらくぢゆをうたひて
これはわかうこれはわかう
めでたくさかえいまさかりなる
御ありさまなどうたひ
給ふ
○光氏ひろまへ
おりたまふ

光氏ハ
光氏を
光氏ぞ
光氏ぞ

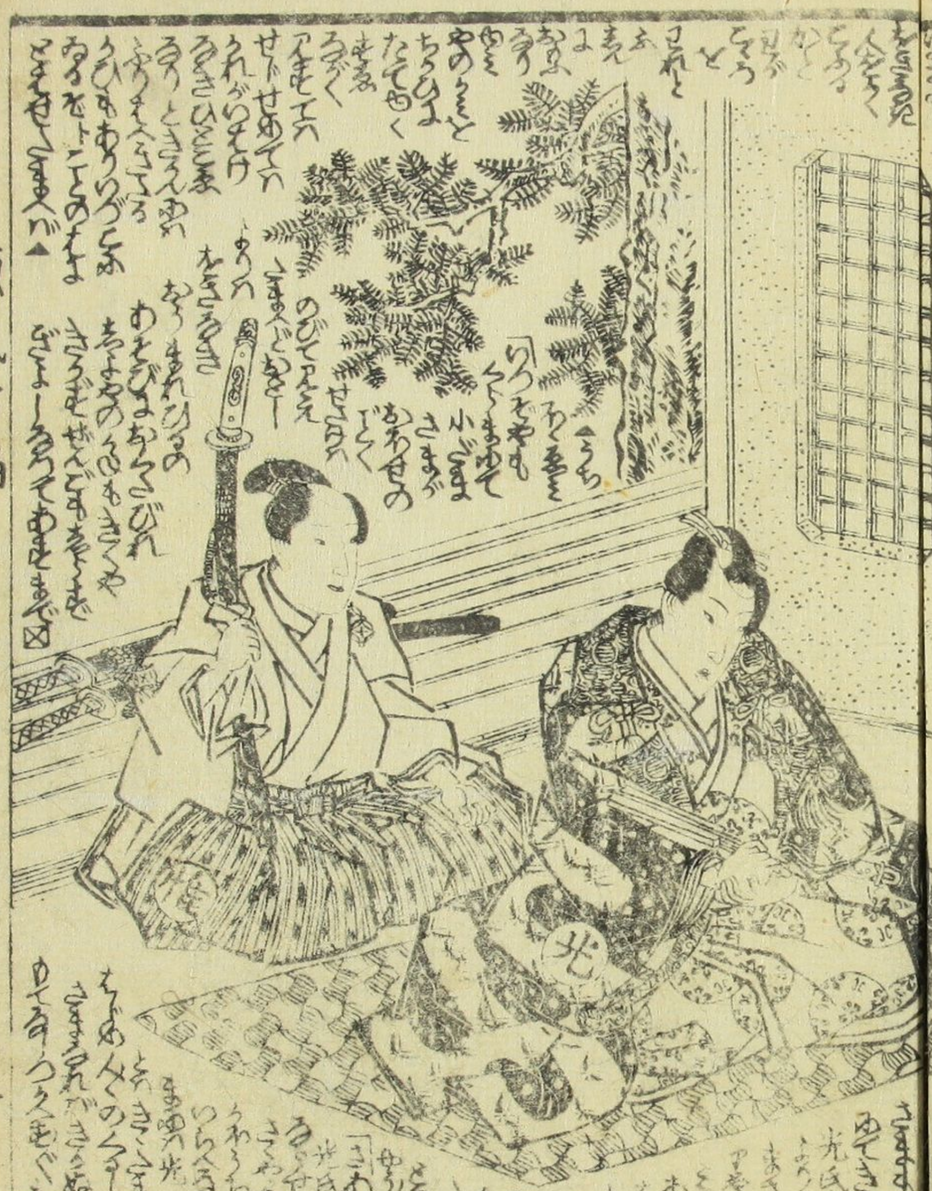
光氏ぞ

左より ⊙おろかにせんとこそうしろ
光氏やとうしろきものけぢろ
ようてもこれがこるやう
ろとうちゑどろこにんろ
けぐまのかそれもわきこと
ろどうちんてるくやー ⇐

⇐ころろゆそこれでまるの
いくまるよりきこうろ
ろそれぬてころうがいまる
こうまべーみとおもちつけ
くれのぎこうんよそれてや
とぢめむこうの
きこそと
ちぐうろ
まうろう
こまとひそも
うちこやけが
光氏いきて
とおくふ

⇐これ吉と
いひおくれど
いろはのこそも
そうくくー
つけてうきえぬ
とこそるきみそと
ろをもうこえも
ちづうーと
こそみたろうー
そのひおこて
これもこそは
こさこそのの光氏も
もてむぞこうきも
うをそろうろくく
ひごろむこぎえ
ままちまちオ
久うまむ
よ
うえさる
これをそ
なの
まそ
まきこ分
このく
ろの

うちうろ
女のつまと
まの
こそえも
いくろれど
あまうめ
むそろうき
とふて
あり父
よー
まきの
あれ
こそな
やこそー
女のもうと
あれがいよのて
きてそろこそ
まづくれこまうせよ
ろゆうひそくのてまべ
まれーまふちあの
ろそれこそろうをうが
うれうさあわあとそれろう
るそばとハ漏目ヨ
こきヨろると
えこまう
○こどまうまままひへ
六でうのこきうごその七



田舎源氏錦繪　ふせのあるこころ　門を追ひ　お枝付け

前北齋為一翁画　江の島大山往来雙六　柳亭撰
先奉ようう賞ひろめ　ミメく指物　ゆる
猶ノ事精密ニ相製申候

同翁画東海道五十三次錦繪　中奉書八ツ切り
見又佳紙をえらミ極彩色袋入ニ製し　おき物　時年玉等
おのきれいやうニ　程奉帯ル

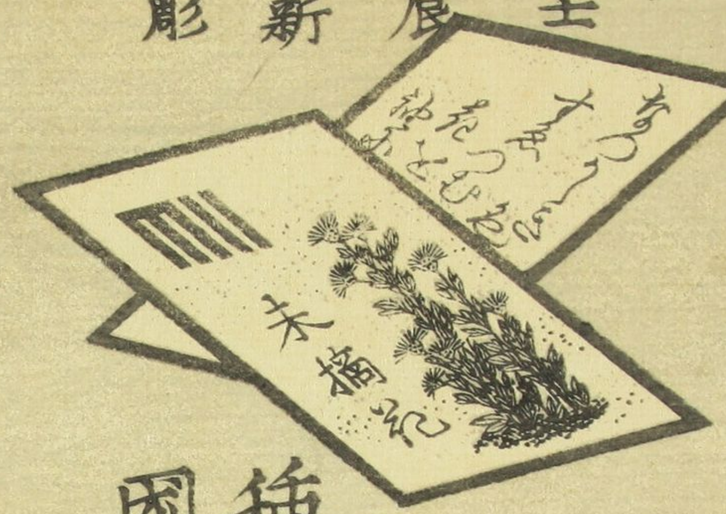
考訂大和詞　柳亭校　弄花翁撰

歌舞妓年代記初編拾遺　柳亭種彦編
故馬馬翁の書もらされる事ども
これ志ル古圖古画をおぎなひ　仙刻

江戸通油町地本書林　仙鶴堂　小林喜右衛門印行

七編下

壬辰新彫



仁勢物語

田舎源氏

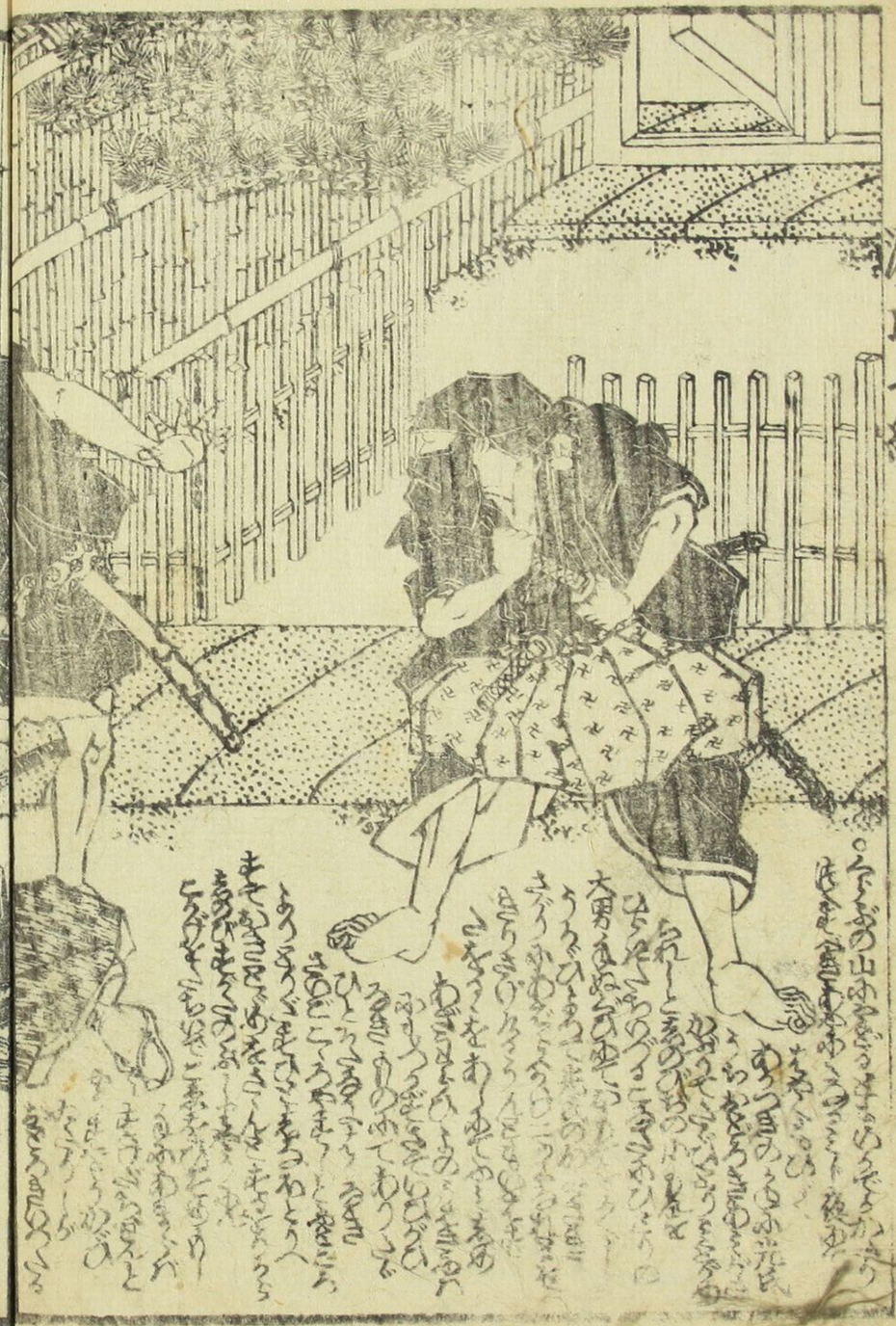
種彦作　七編　下冊

國貞画

通油町　仙崔堂

光氏

加



天保午春新版書林地本問屋仙佳堂山田

國貞画種彦作

筆耕千形道友

傾城水滸傳第十三編 八冊 歌川貞秀画
若衆荻梅條振 全六冊 歌川国貞画
百人一首童講譯 八冊 歌川国貞作
製本菜種黄表紙 全四冊 歌川貞秀画
二國志畫傳第八編 八冊 歌川国貞作
國字水滸傳十三編 四冊 歌川国芳画
一石橋山義兵白旗 全五冊 歌川国芳画
星下梅花咲 全六冊 歌川貞秀画
戀山崎妹背相駕 全六冊 歌川国貞画
浮世説 四冊 歌川貞秀画
修紫田舎源氏十編十二編十三編 歌川貞秀画
旗颪菊水葛葉 全六冊 歌川広重画

書物錦繪 江戸通油町 團扇地紙 問屋 西宮屋至喜右衛門